

認知症 / 認知機能低下に対する排尿関連動作支援

神谷正樹¹⁾，大沢愛子²⁾，加賀谷 齊³⁾

1) 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター リハビリテーション科部 作業療法主任

2) 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター リハビリテーション科部 医長

3) 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター リハビリテーション科部 部長

Point

- ▶ 認知症および認知機能が低下した人の下部尿路機能障害についてはよく知られておらず、その介入方法やエビデンスは乏しい
- ▶ 下部尿路機能障害の支援において、低下した認知機能や残存機能を評価・把握することで適切な支援に活かすことができる
- ▶ 認知症および認知機能が低下した人に生じる認知機能障害の内容や重症度によって、対応方法に個別性が生じる
- ▶ 認知症では排尿動作の自立が困難な事例も多く、家族介護者への適切な支援が必要である
- ▶ 排尿動作支援に支援機器の利用も有効である

はじめに

高齢者が多く罹患する疾患の1つに認知症があります。認知症は認知機能の低下だけでなく、下部尿路症状 (lower urinary tract symptom ; LUTS) などさまざまな症状を合併し、排尿関連動作の能力低下もきたすため、生活に問題が生じます。そのため、適切な支援がなければ、生活レベルが低下したり、

家族介護者の介護負担感の増加につながり、在宅生活の継続が困難となります。

本章では、まず認知症と認知症に伴う症状について概説した後、認知症の人に神経心理学的検査を実施することで、どのような排尿支援や家族介護者支援につながるか、またその具体的な支援方法について述べます。

認知症とは

世界保健機関の国際機能分類 第10版 (ICD-10) では、認知症は、「通常、慢性あるいは進行性の脳疾患によって生じ、記憶、思考、見当識、理解、計算、学習、言語、判断など多数の高次脳機能障害からなる症候群」とされています¹⁾。地域在住の認知症患者は、認知症の進行とともに、全般的な認知機能、日常生活活動 (activities of daily living ; ADL)、手段的 ADL (instrumental ADL ; IADL) の低下に加え、行動・心理症状の増悪や家族介護者の介護負担感の増加が生じます²⁾。さらに、高齢になるほど認知症の有病率は高く、4人に1人は認知症または軽度認知障害 (mild cognitive impairment ; MCI)、あるいは約7名に1人は認知症ともいわれています (図1)³⁾。すなわち、医療や福祉の分野で高齢者に関わる際に

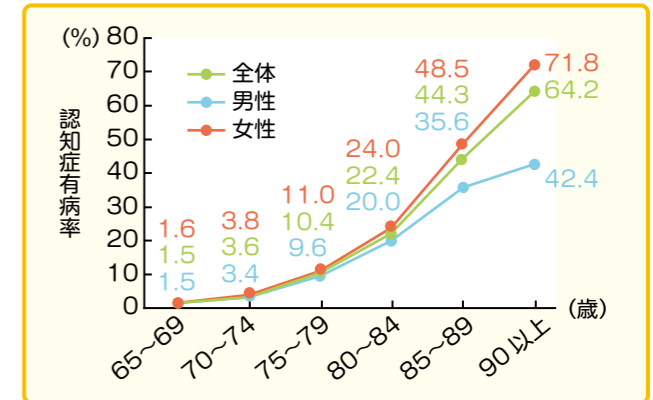


図1 一万人コホート年齢階級別の認知症有病率

高齢者の約4人に1人は認知症または軽度認知障害 (MCI) (2012年時点) 約7人に1人は認知症 (2018年時点)
(出典) 厚生労働省老健局: 認知症施策の総合的な推進について (令和元年6月20日)。 <https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000519620.pdf> (2022年8月閲覧)³⁾

認知症の存在が問題となる頻度は非常に多く、包括的かつ多面的な支援が求められています (表1)⁴⁾。

表1 認知症で認められる主な認知機能障害

認知機能	症状名	初期から発現しやすい認知症 ^{*1}	
全般性注意	全般性注意障害	必要な作業に注意を向けて、それを維持し、適宜選択、配分することができない。いろいろな作業でミスが増える。ぼんやりして反応が遅い。	各種認知症
遂行機能	遂行機能障害	物事を段取りよく進められない。	前頭側頭葉変性症 ほか
記憶	健忘	前向き健忘: 発症後に起きた新たなことを覚えられない。 逆向き健忘: 発症前のことを思い出せない。	Alzheimer 型認知症 Lewy 小体型認知症 嗜銀顆粒性認知症
言語	失語	発話、理解、呼称、復唱、読み、書きの障害	原発性進行性失語 (前頭側頭葉変性症, Alzheimer 型認知症)
	失書	書字の障害。文字想起困難や書き間違い。	各種認知症
計算	失算	筆算、暗算ができない。	各種認知症
視空間認知	構成障害	図の模写、手指の形の模倣などができない。	Alzheimer 型認知症 Lewy 小体型認知症
	地誌的失見当識	よく知っている場所まで道に迷う。	Alzheimer 型認知症
行為	錯視、幻視	無意味な模様などを人や虫などに見間違える。実際はないものが見える。	Lewy 小体型認知症
	失行	肢節運動失行: 細かい動きが稚拙で円滑な動きができない。 観念運動性失行: バイバイなどのジェスチャーができない。 観念性失行: 使い慣れた道具をうまく使えない。	大脳皮質基底核変性症
社会的認知	脱抑制など	相手や周囲の状況を認識し、それに適した行動がとれない。	前頭側頭葉変性症

*1 原因疾患によらず進行とともに種々の認知機能障害が出現するので、初期に各認知機能障害が目立ちやすい認知症をあげた。
(出典) 日本神経学会 (監修) / 「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会 (編): 認知症疾患診療ガイドライン2017. 医学書院, p20, 2017. ⁴⁾ より転載